特別
へ13
1920
7

浮世繪
墨画
うちわ
種彦化
版元
国貞
画

門へ遠13
1920
7上

十二月の頃

あけがらす

さくらの

うちつかた

移り化

国鳥

一

月夜烏

文鳥

病鴉種々の可良須ある中ゆ明鴉と

人々時娜みやうみるの新内節の愛形みらんそん浦里と時次郎の

恋を積まる梦の沫雪文句とそくもおつかえるくもぶ偖數度云ふこゝろ

色めかしき世界みまゝ老毛曼ゆ極めて應さもき其上ゆりつくもも

初代浦里が薄命と小織助の流浪みどめて十編餘の長談時次郎

のみ紀ゆ烏を酒有て看みく太夫有て三糸みく面有て讀みた

艸紙の如く弦みた弓ゆ彎まれど投てる當る一枝の矢ゆ雁股みろ

ちらみちらゆ十三編まで運歩てんくれど二心ゆの浦里未嬰兒次郎とみる発

鐔ゆ却て早十四五歳其間の年暦を合せん爲の合の狂言何とゆらうぞ

太郎冠者とまゆ一段宜しゆくまも餘事ゆ省略て急で參らう後の山名屋の

段まぐゆお待遠ゆいゆくのぞく

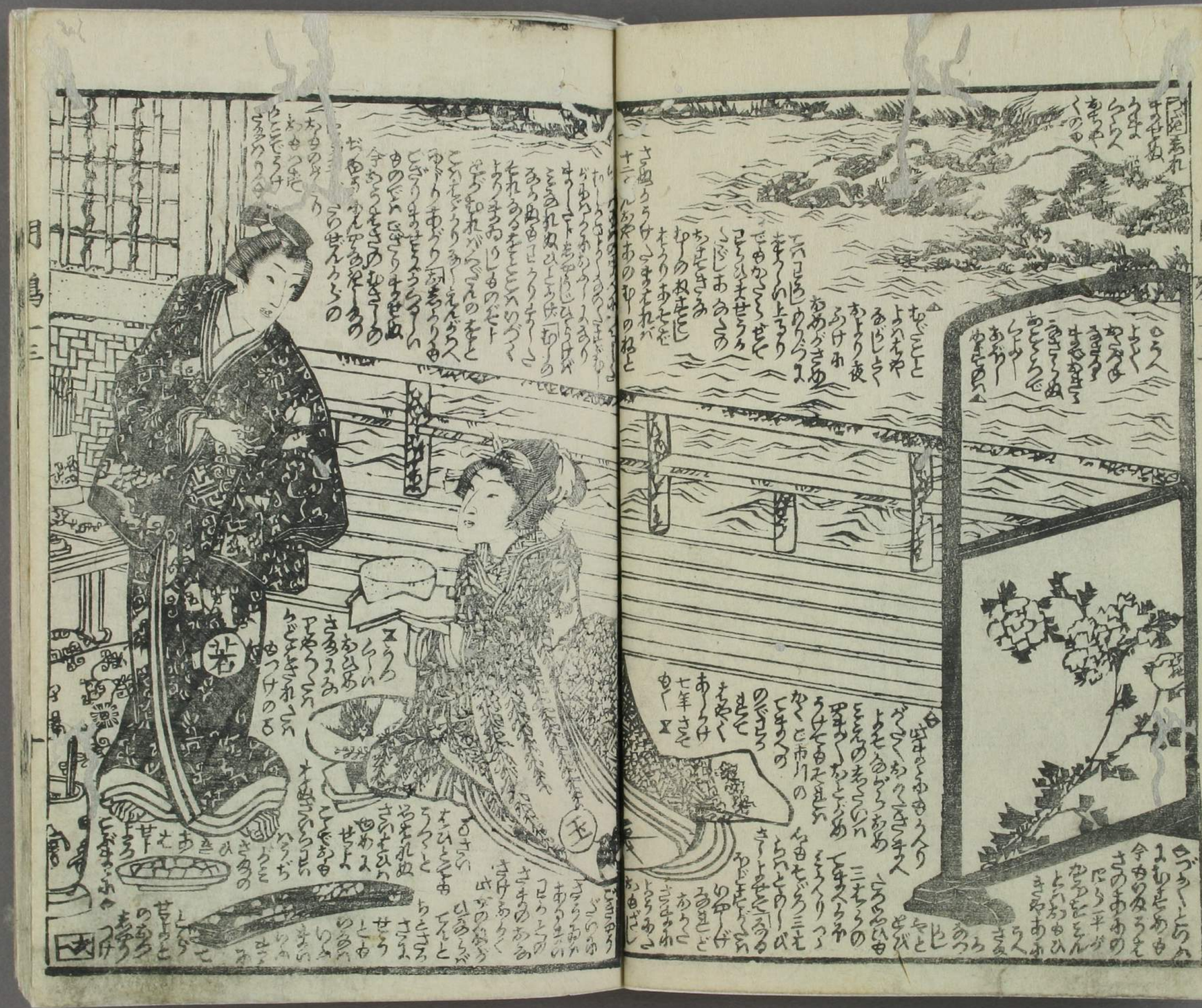
丁卯歳首

柳亭種彦

明鳥十三
中也
郁鈴
石橋家妻玉琴
駒ゝ丸
御立場
侍女三原
豆の葉
主次郎
忠僕四郎平

前髪熱鬼夢小池清

此と
次の画ハ
玉琴ふも
の



慶應三丁卯正月　陽春開板　標目

七時き葛飾譚　種彦作　國貞画
空町源氏物語春　種彦作　國貞画
傾国清談恋の吐倉　種彦作　國貞画
明治雷電記　種彦作　國貞画
童謡妙々車　種彦作　國貞画
花封古事書　種彦作　國貞画
東海道幻日記　春水作　國貞画
八犬伝の現代　柳亭種彦　國貞画

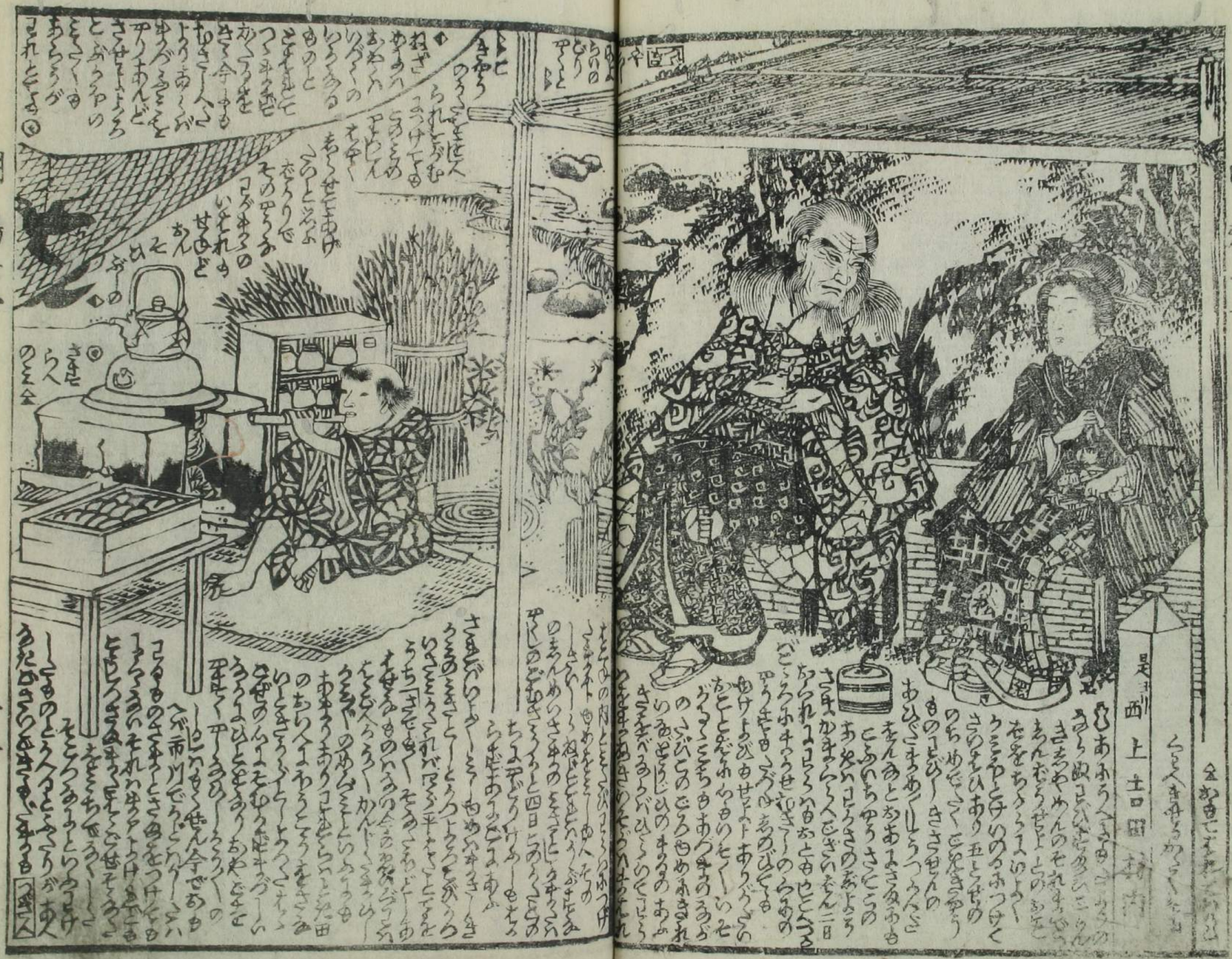
地本双紙問屋
鶴屋吉蔵板

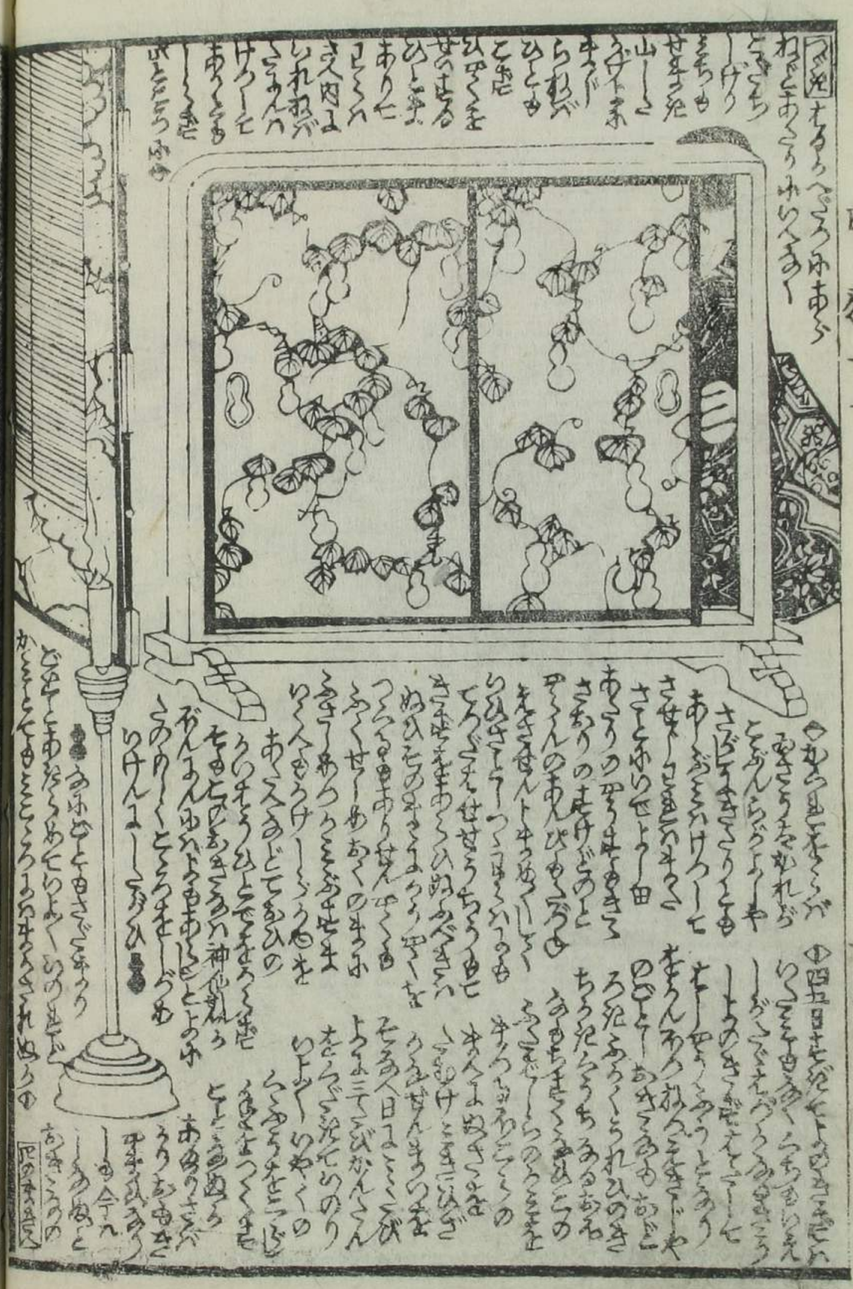
あけやま
國貞画
十三編下

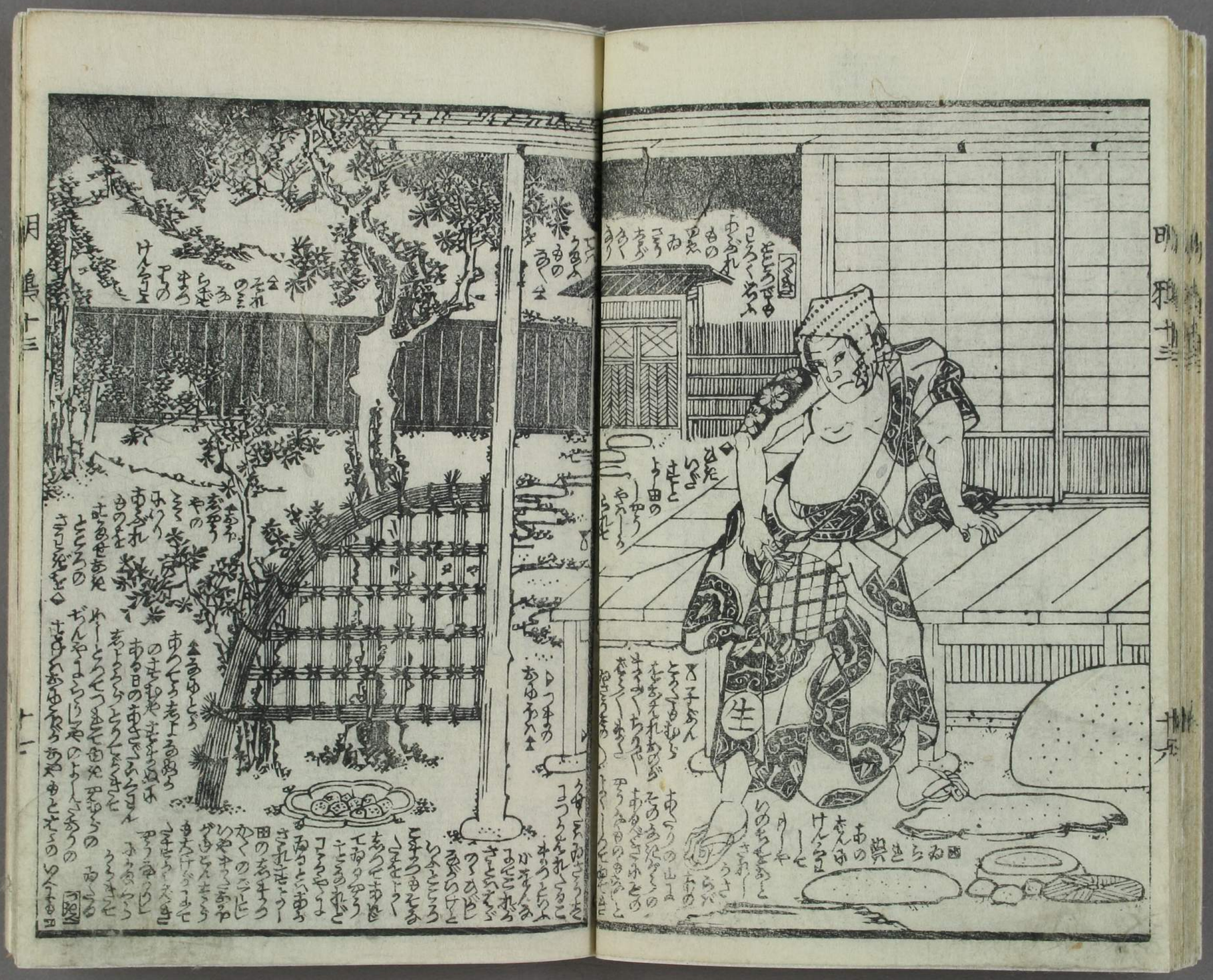
明鴉墨画乃福禄

十三編下

柳亭種彦 作
梅堂国貞 画
蔦吉堂 蔵


是より西上 土口田 新内





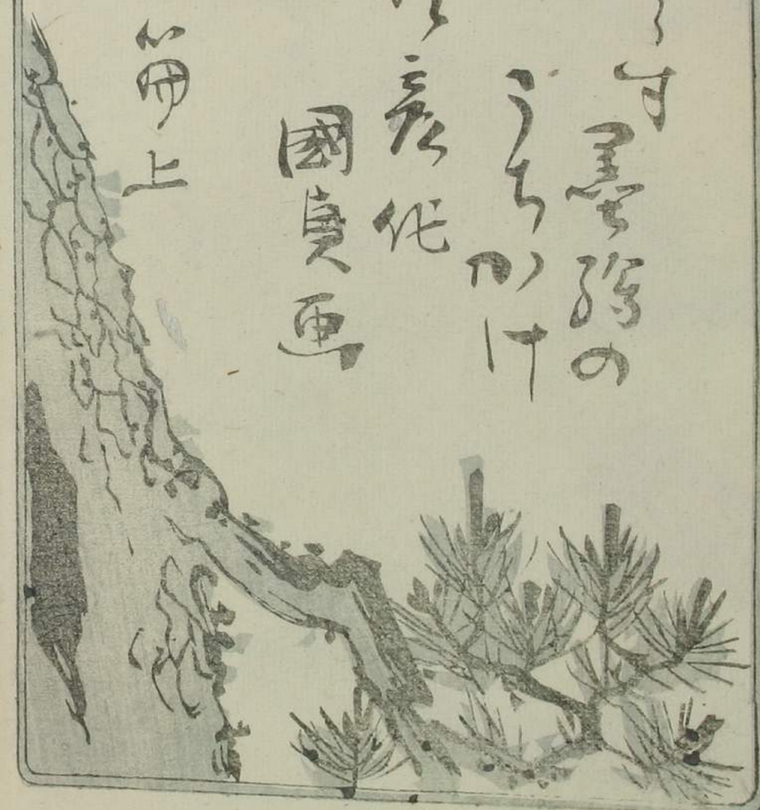
火用心

本家
實母散
新局九尾傳 四編 五編 歌水春水作 梅蹊樓國貞画
鼠商通夜譚 柳亭種彦作 梅蹊樓國貞画
信州鼠の里なる和泉小僧と云少年鎌倉殿の近臣三浦二階堂其他諸大家ゆゑ寺院の財寶を盗み名を島くらべ物語百新 頼島鳥
和州山辺氏の良醫の車蹟小綾合せ
十橋南傳馬町一丁目東
葉堂孝輔製

十四扁上

明かす墨の
うちかけ
種彦化
國貞画

十四編上



且明まして初めてさう初鳥の羽色を擬せし浦
烟墨の新しきを摺流しさる硯海沖見い浦里の
庚詞より故人春馬の[illegible]解き氷の若水に沾て
未乾ぬ袖を[illegible]脚を洗ふ復本の白と黒との善惡
分明其大詰をまろの内〳〵速々作けとの主顧方の
芳命ふかを兄方ふもろ〳〵吉書始ふとる筆の毛卯
の正月元日

柳亭種彦
自叙

鐔市下巻を時〳〵とあらお造酒十九へんをそう〳〵ぎとかゝ〳〵

月鳥十四
浦里
零落て
花子と
ある
小織之助
世を潜て
高人安

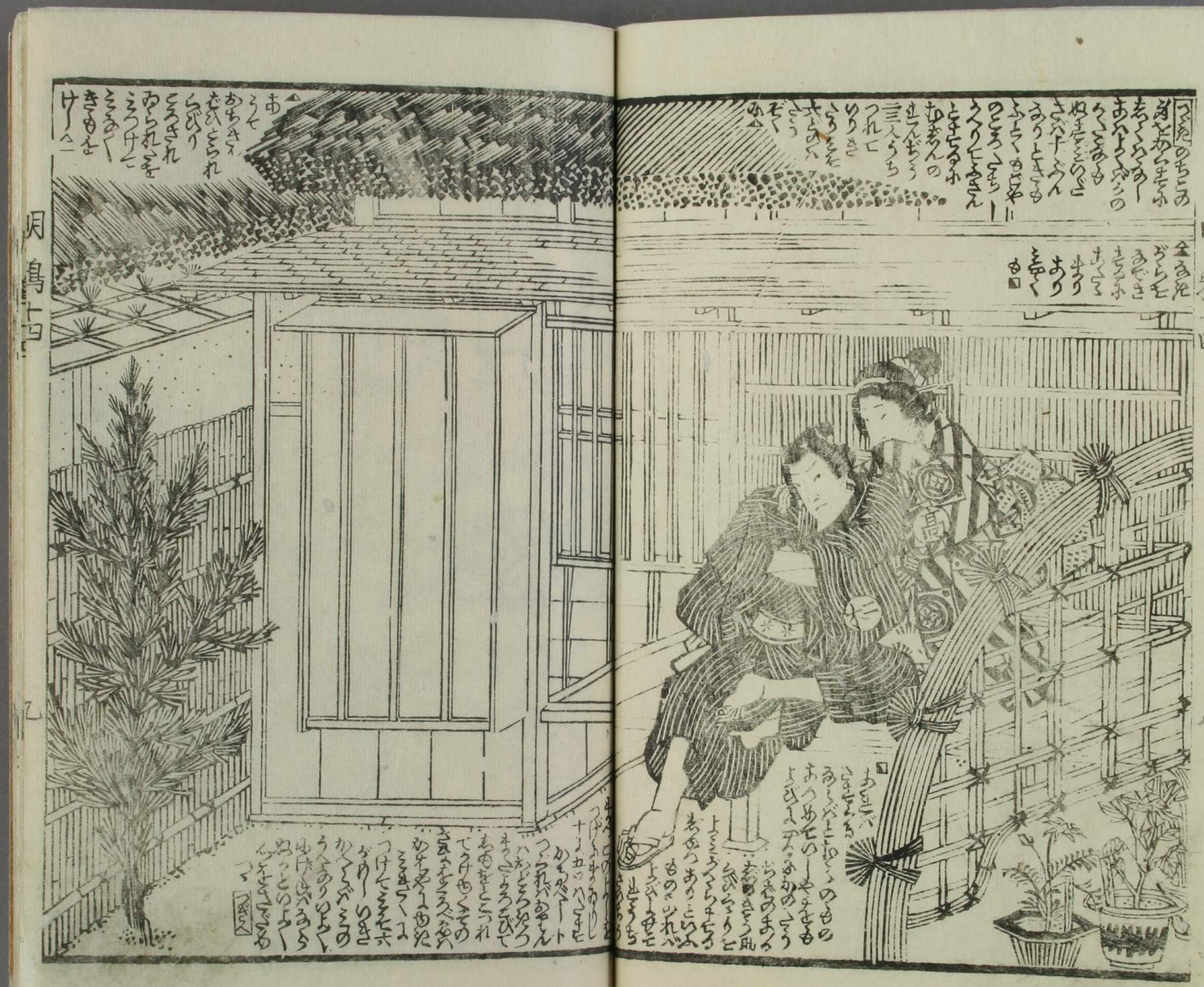
猫

黒

醤
油

富士源頼家
南村中安全

下田
鰹

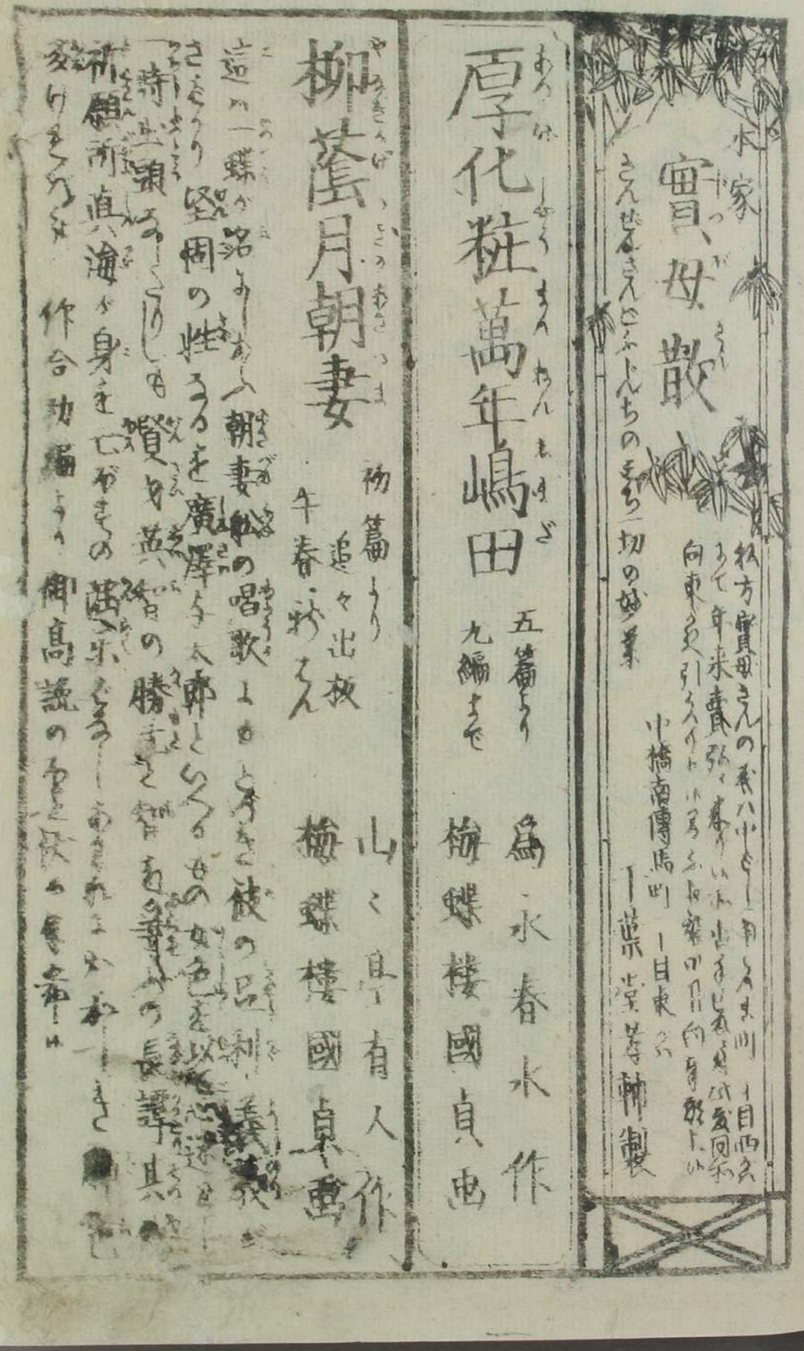


種彦作　國貞画

本家
實母散
秋方實母散の義八中を一名人丸山一目西久向東久引久イトハ小ミ丸薬四日有效同薬
中橋南傳馬町一目東久
一葉堂等制製

厚化粧萬年嶋田　五篇　爲永春水作　九編　梅蝶樓國貞画

柳蔭月朝妻　初篇　追々出板　午春・秋　山々亭有人作　梅蝶樓國貞画



十四編下

明かるく寸十四節下

日乃出
明鳥十四

つのまんそうを

柳亭種彦作

梅蝶樓國貞画

紅英堂欽白版元

明治三年庚午陽春開板標目

新局九尾傳 十編より十二編まで 爲水春水作 梅蝶樓國貞画

室町源氏胡蝶巻 十七篇 十八篇 十九篇 種彦作 國貞画

鼠伺通夜譚 七編 八編 九編 種彦作 國貞画

筆海四國閑書 十三編 十四編 十五編 種彦作 國貞画

童謡妙々車 十四編 十五編 十六編 種彦作 國貞画

明鳥墨蹟稲荷 十五編 十六編 十七編 種彦作 國貞画

花封答玉章 十編 種彦作 國貞画

薄倖幻日記 十九編 二十編 廿一編 春水作 國貞画

八犬傳犬の双紙 カ一編 カ二編 カ三編 柳亭作 國政画

七奶き菖飾譚 一編 二編 三編 種彦作 國貞画

南傳馬町壹丁目 蔦屋吉蔵板

あけがらす
すみなの
ちちうえ
ちはや